

病虫害防除技術情報第4号

平成30年5月30日

三重県病虫害防除所

クビアカツヤカミキリが周辺都府県で発生しています 幼虫を発見し侵入を防ぐのは今！警戒を徹底しましょう

1. 対象作物 ウメ、モモ、カキ、サクラ等

2. 対象病虫害名 クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*)

3. 全国の発生状況等

平成24年以降、ウメ、モモなどの果樹やサクラなどを食害する侵入害虫のクビアカツヤカミキリが、大阪府、東京都、愛知、徳島、栃木、群馬、埼玉県で確認されています。

三重県内ではこれまで発生を確認していませんが、万一発見した場合は、病虫害防除所(電話：0598-42-6365)までご連絡ください。幼虫を発見しやすい5～6月に、十分な警戒をお願いします。

4. 生態と被害状況

(1) 上記のバラ科木本植物が主要な寄主です。しかし、海外ではカキ、クワ、オリーブ、ヤナギに寄生した報告があります。

(2) 幼虫は4月上中旬に摂食を始め、5～6月に摂食活動が最も盛んになります。1～3年かけて樹の内部を食害して成長します。

(3) 6月下旬頃に繭になり、成虫は6～8月頃に出現します。成虫は7月下旬から幹や樹皮の割れ目に産卵し、8～9日後に卵が孵化します。

(4) 被害の特徴

孵化した幼虫は樹皮下に穿孔して形成層を食害し、成長すると樹皮表面に排糞孔を開けてフラス(糞、木くず、樹脂の混合物)を排出します。フラスが堅く(脆い)細長いのが特徴ですが、春先や枯木では固まらずに粉状になることもあります。被害量が多いと株もとはフラスの山で覆われます。

摂食活動とフラスの排出が盛んな5～6月が、最も幼虫を発見しやすいため、この時期の警戒が効率的な被害防止につながります。

●細長い(かりんとう状)、堅く脆いフラス = クビアカツヤカミキリの疑い

●粒状(球状)、粉状のフラス = その他の昆虫

5. 防除対策

(1) 早期発見による拡散防止

フラスを見つけて幼虫のうちに防除することが、成虫が飛翔し被害が拡大することを防ぐために重要です。本種と思われるフラス発見した場合は、病虫害防除所までご連絡ください。

(2)防除方法

食入孔に針金等を差し込み幼虫を刺殺し、食入孔の内部のフラスを針金等で取り除いたうえで、ノズルを差し込み登録薬剤(カミキリムシ類)を噴射します。

食入孔のある樹幹にネット(目合い4mm以下)を巻きつけて成虫の移動を防ぎ、成虫は見つけ次第捕殺します。被害が大きい樹は伐採します。

表1 クビアカツヤカミキリに登録のある薬剤例(平成30年5月29日時点)

農薬の種類	作物名	適用病害虫名	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フェンプロパトリンを含む農薬の総使用回数
フェンプロパトリン エアゾル	果樹類※	かみきりムシ類	収穫前日まで	2回以内	樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射	2回以内
	うめ かき					5回以内(噴射は2回以内、散布は3回以内)
	もも					7回以内(噴射は2回以内、散布は5回以内)
	さくら	クビアカツヤカミキリ	—	6回以内		6回以内

※かんきつ、りんご、なし、びわ、もも、うめ、おうとう、ぶどう、かき、マンゴー、いちょう、(種子)、くり、へかん、アーモンド、くるみ、食用つばき(種子)を除く。



農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。